

事業報告書

(第 29 期)

自 令和 7 年 4 月 1 日
至 令和 8 年 3 月 31 日

笠間工芸の丘株式会社

第 29 期事業報告

(令和 7 年 4 月 1 日より令和 8 年 3 月 31 日まで)

はじめに

笠間工芸の丘は、平成 10 年 4 月 24 日に開業してから、お陰様で 28 年目を迎えることができました。最近では、令和 6 年 4 月 29 日には、「クラフトカフェ」が、工芸の丘センタープラザから建物が独立した形で、茨城県立笠間陶芸大学の間の敷地に新設し、オープンしました。その後センタープラザの大規模改修工事を経て、令和 7 年 3 月 22 日にリニューアルオープンを迎えることができました。令和 7 年度は、新たな年の幕開けとなりました。ここに、皆様方の温かいご支援をいただきながら、第 29 期の決算年度を終了し、ご報告できますこと、心から御礼申し上げます。

【従業員の状況（令和 8 年 3 月 31 日現在）】

	社員（嘱託含）	パートタイム従業員	合計
総務	2	0	2
広報・催事・インフォ	2	1	3
販売	3	5	8
工房	2	1 2	1 4
カフェ	5	6	1 1
ミュージアムショップ	1	0	1
合計	1 5	2 4	3 9

【代表取締役の退任と新任】

令和 7 年 6 月 20 日取締役会、株主総会で次のとおり承認され、交代いたしました。

退任 福永信一

新任 梅原尚美

【笠間工芸の丘令和 8 年度以降の指定管理業務受託決定】

令和 7 年 10 月 29 日に開催されました指定管理者選定に関わる審議会に出席、令和 8 年 4 月 1 日より 5 年間（令和 8 年度～令和 12 年度）にわたり、引き続き「笠間工芸の丘」の指定管理業務を笠間工芸の丘株式会社が受託することが決定しました。

【主な新規取り組み】

- ・令和7年度事業継続力強化計画（BCP）の事業者認定を受ける
- ・「管理業務の集約化に向けた業務改善プロジェクト」実施
- ・組織、業務執行機構作成

【営業概況】

- *第29期来場者数 168,300人（前年度：129,000人）
→ 前年比 130.5%（約30.5%増）
- *工房利用者数 12,786人（前年度：11,840人）
→ 前年比 108.0%（約8.0%増）
- *カフェ利用者数 51,957人（前年度：51,485人）
→ 前年比 100.9%（約0.9%増）

〈主なギャラリー企画〉会場：クラフトギャラリー・ギャラリーカフェ
 花を飾る器展、陶芸大学校一年後展、莞爾光爾展、佐野有子展、新進作家展、三瓶明子展、相馬晃・登志恵展、猪本陶房展、笠間×益子作陶展、谷口将海展、穂高隆児展、夏の器展、笠間焼青年部展、うつわとモンブラン展、アトリエCicada展、砂山ちひろ展、八十島窯展、さがわはるな展、前野とも子展、大杉陶房展、宮本希展、江橋勇・圭子展、野村朋香展、笠間焼伝統工芸士展、タスファイエ・ガライヤ展、陶・木・染三人展、陶と織展、みんなにやさしい器展（ひとらぼ）、海老澤礼子うつわ展、かさまの陶びな展、KASAMAの色展、樫村恭子展、須藤陽子展、小峰尚展、春の器展

〈主な屋外イベント事業〉

企画名	日程	来場者数（人）
カラフル	2025. 4. 26～4. 29	15,000
クラフトギャザリング春	2025. 5. 3～5. 5	22,000
クラフトギャザリング秋	2025. 10. 11～10. 13	21,000
古本市+にゃんぱら	2025. 10. 25～10. 26	7,000
陶と暮らし。KASAMA	2025. 10. 31～11. 3	43,000
ボタニカルライフ	2025. 11. 8～11. 9	6,500
カラフル	2025. 12. 6～12. 7	7,000
第27回彩初窯市	2026. 1. 2～1. 5	17,000
ボタニカルライフ	2026. 3. 7～3. 8	7,500
古本市+にゃんぱら	2026. 3. 20～3. 22	14,000
めでる	2026. 3. 28～3. 29	3,000

〈いばらきネクストツーリズム推進事業プロモーション〉

茨城県×『薬屋のひとりごと』コラボを実施、県内に設けられた 10 か所のうちの 1 か所として県内外より 1,600 人以上が来館されました。

〈夏休み親子イベント〉

茨城県環境管理協会並びに茨城県地球温暖化防止活動推進員の協力のもと、
芸術の森公園での虫とりと生き物観察・SDGS 缶バッチづくり
アート作家なるちゃんの協力のもと、こどもクラフトワーク
たこや紙芝居店の紙芝居、おはなしぐるーぷどんどの読み聞かせ

ぴっかりぽっけ第 1 回	2025. 8. 2	4 6
ぴっかりぽっけ第 2 回	2025. 8. 9	5 2
ぴっかりぽっけ第 3 回	2025. 8. 11	4 8

〈センタープラザ販売〉

大規模改修リニューアルにより、前面の売り場面積が広がりました。日常使いの笠間焼、地元作家の工芸品、酒、食品の茨城の土産品を販売。陶芸に関する美術品古書の取り扱いも開始。特に秋の観光シーズンに合わせたお土産品の商品構成を強化し、11 月には月商が 10,000 千円以上となりました。県内の企業とコラボして商品化した「くりの菓シリーズ」はお土産品として好調でした。ただ、観光シーズンとオフシーズンでは、来場者の人数が大幅に異なり、それに伴い売上の月額の波がありました。奥の売り場である作家展示コーナーは、松井康成展示室を 2 階から移設となり、売り場面積が減りました。それに伴い展示作品が少なく、かつ高額商品の利用が減りました。ただ、海外のギャラリーから大きな引き合いがあり、商談を進めているところです。年間を通して、二か所の場所でのギャラリー企画展は、35 回実施しました。詳細は、前記の主なギャラリー企画に掲載しました。

〈工房〉

陶芸体験は、ロクロ、手びねり、絵付け、フュージングを実施しており、個人利用も団体利用も好調です。ただし、体制上の課題があり、作品の仕上がり、体験から納期までの期間が少しずつ延びてしまいました。納期の短縮に向けて令和 8 年度に向けて体制を整えています。

〈カフェ〉

カフェでは、メインのハンバーグプレート、チキンカツプレートなどランチメニューに好評いただいております。雑誌、広報誌などの取材も多くありました。カフェで使用している器のすべてを笠間焼で揃えており、センタープラザでも一部同じ器を購入することが可能です。季節毎にメニュー替も実施しており、原材料の高騰から一部値上げを実施したものもあります。ランチタイム以外でもモンブランをはじめとするスイーツを各種と飲み物をご利用いただけるカフェタイムもあります。最近の傾向として、工房体験のお客様がカフェも利用するなど、複合施設ならではの利便性の良さが人気を集めています。

〈ミュージアムショップ〉

茨城県陶芸美術館内のミュージアムショップでは、笠間焼のほか美術館が開催する企画展の図録をはじめ、作品も全国から集めて展示販売しています。令和7年度は、美術館のLED工事が実施され、企画展のない期間が12月より3月までの約4か月間あり、来場者が少ないことの影響がありました。

〈イベント関連〉

令和7年度は、主に屋外イベントを実施しました。内容については、前記に記載した主な屋外イベント事業で企画名を記載しております。主催事業と協力事業がありますが、芸術の森イベント広場や屋外ステージで開催される他のイベントと同時開催が多く、にぎわい創出の一旦を担っています。屋外イベントの収益事業としては飲食出店者の売上に応じた手数料などがあります。

〈広報〉

コロナ禍以降、施設の大規模改修に至るまでの期間は、一部営業を休止した状態が続いていたため、ギャラリー企画展をはじめ、新作入荷のお知らせなど、告知が行えない状況が続いていました。

令和7年度からは、笠間市の市報お知らせ版をはじめ、タウン誌、当社ホームページ、SNSの運用を再開しました。

【営業実績報告】

第29期の売上高合計は250,563千円となり、前年度実績に対し46,318千円増（前年度比122.7%）となりました。

物販部門全体の売上は167,087千円となり、前年度実績に対し41,303千円増（前年度比132.8%）となりました。主な要因として、クラフトカフェが引き続き好調を維持したことに加え、それに伴い物販部門の売上も伸長し、大規模改装の効果により全体売上を押し上げる結果となりました。

また、工房部門の売上は41,191千円となり、前年度比3,511千円増（前年度比109.3%）となりました。体験利用者数につきましても12,786人となり、前年より約950人増加するなど、コロナ禍以降落ち込んでいた利用実績を回復基調に戻す結果となりました。

手数料収入につきましては、笠間芸術の森公園管理手数料、工芸の丘指定管理料（芝生・樹木管理）に加え、自動販売機手数料を含め40,861千円となり、前年度比1,428千円増（前年度比103.6%）となりました。

売上原価は87,580千円となり、前年度実績63,944千円に対し23,636千円増加いたしました。売上増加に伴う商品仕入れの増加が主な要因となっております。全体の原価率は34.9%となり、前年度の31.3%から上昇いたしました。世界情勢や国内市場における価格上昇に伴う物価高騰の影響により、一部商品では十分な価格転嫁が難しい状況であったことが要因と考えております。

この結果、売上総利益は162,982千円となり、前年度比22,682千円増（前年度比116.2%）となりました。

一方、販売費及び一般管理費は171,499千円となり、前年度比5,858千円増（前年度比103.5%）となりました。これは、物価上昇に伴う人件費や水道光熱費等の固定費増加によるものであります。特に人材不足への対応は当社においても重要な課題であり、人材確保・維持に必要なコストとして対応してまいりました。また、体験発送手数料等5,147千円を営業外収益として計上いたしました。

以上の結果、経常損失は3,684千円となり、法人税等充当額185千円を計上した結果、当期純損失は3,869千円となりました。

今後も笠間市の観光振興と地場産業の発展に貢献するとともに、さらなる企業価値の向上を目指し、従業員一同より一層努力してまいります。引き続き、ご指導ご支援を賜りますようお願い申し上げます。